



(左) 水温・塩分濃度・栄養分を測定します (右) 観測機器を引き揚げ中



宗谷地区

水産技術  
普及指導所  
【枝幸支所】

# 知っていますか水産普及情報

## ◆写真で見える普及指導所の活動 (343)

### 『沿岸環境調査と情報発信』

枝幸支所が担当する枝幸町と浜頓別町では、ホタテガイが全生産量の九割を占めるほか、毛ガニや秋サケも全道トップクラスの生産量となっています。そのホタテガイは、両町の面積の約八割を占める森林から注がれる栄養豊かな河川水と、流水によって運ばれる豊富なプランクトンによって育まれる大自然の宝物となっています。

そこで当支所では、ホタテガイの成育などに大きく影響する水温や塩分濃度、さらに餌環境の指標であるクロロフィルa量について、枝幸漁協、頓別漁協、地域の漁業推進連絡協議会と連携し、枝幸町と浜頓別町にそれぞれ数カ所の定点を設けて、定期的な観測を行っています。得られたデータは定期的に集計し、

漁協や漁業士をはじめとする漁業関係者に解りやすく伝えることを意識して取りまとめて配布しています。

また、枝幸漁協は乙忠部（おつちゅうべ）地区の沖に、冬期間を除いて水温ブイ（ユビキタスブイ）を設置しています。この水温ブイは、表層から5mピッチで深度20mまでの水温が毎時自動で観測され、スマートフォンなどで



▲採水した海水を濾過している

いる他、地域にあるさけますふ化場では稚魚放流時期の判断材料として活用されています。

昨年の秋に道東太平洋海域を中心に大規模な赤潮が発生し、国内最大級の被害が出ました。オホーツク海に面した当地では赤潮の発生は確認されなかったものの漁業関係者は「他人事ではない」と危機意識を高めており、沿岸環境



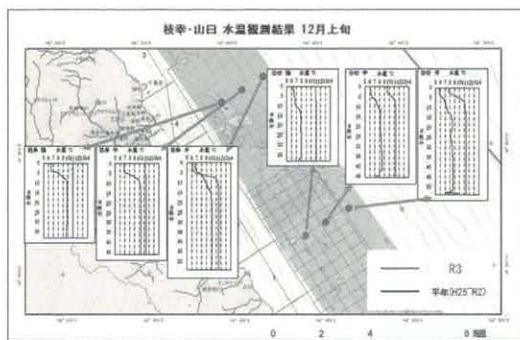
▲クロロフィルa量を測定

リアルタイムに確認することが出来ます。このため、春のホタテガイ採苗や秋のさけ定置などに関わる漁業者の参考になつて

の変化をいち早く察知するためにも観測調査の重要性が一段と増してきています。

近年、漁協で高性能な観測機器を配備したことで、採水・分析が必要であった項目も、その観測機器によって数値化されるものもあり、より迅速に且つ多項目のモニタリングができるようになりました。

当支所はこれからも地域関係機関と連携し、沿岸環境へのアンテナを常に張り、変化を早期に察知できるように、活動を継続していきたいと考えています。



▲定期的に配布する水温情報